

平成 24 年 7 月 18 日

## 7 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産状況は、価格下落により生産が減少している中で国有林の伐採が開始。入荷が減少しているものの、製品の荷動きは依然として悪く、ヒノキ柱材をはじめ引合いの弱い状態が続く。中目材はますますの荷動きだが応札数が減少。ヒノキ柱材の値下がりが続く中で、スギ柱材は幾分値戻しし底値を脱した模様。中目材はスギ、ヒノキとも弱保合から保合で推移。群馬の製材工場の操業状況は悪く在庫は多め。6 月以降受注が悪く、スギ原木は続落し柱・中目とも 8 千円/m<sup>3</sup>を割った。更に国有林の出材が始まり一段と下落の可能性大。一方、カラマツは集成材ラミナ用として 1 万円台/m<sup>3</sup>を維持。

### 2. 米材

5 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 4.8%減の年率 70 万 8 千戸となった。米国丸太は、中国需要が依然低迷している中で、国内需要が先月に引続き好調。相場は弱含み。カナダ丸太は大手サプライヤーの生産調整が続いているため、伐採量は減少。相場はセカンドグロスが弱含みでオールドは保合。産地の港頭在庫は、伐採量と出荷量とのバランスが取れており、大きな変化なし。ウェアハウザー社の 7 月積み米マツ IS ソートは前月比 10 \$ ダウン。米材丸太の入・出荷は横這い、在庫は増加傾向。大型港湾製材工場の 6 月の荷動きは好・不調が鮮明となり、東北・関東に販路を持つところは順調だが、西日本の動きは悪い。内陸部製材工場の荷動きは総じて低調。製材品の TLT(東京木材埠頭) の 6 月入荷量は 4 万 2 千 m<sup>3</sup>で前月比 7.3%減。出荷量は同 0.6%減で、在庫も 4.1%減。産地情勢は、本格的な伐採シーズンに入り、供給面での不安はない。産地価格は、米国住宅市場の改善により値上傾向が続いたが、独立記念日等休暇が続く若干弱含み。

### 3. 南洋材

サバは、景気の低迷を受け、バイヤー側は発注量を減じ、強く値下げを要求しているが、原木出材が絞られていることや良材不足で価格は横這い又は緩やかな下落にとどまる。現地サイドは今月中旬からの始まる断食により、更なる減

産が予測され、買手・売手双方にとって難しい状況。サラワクは、伐採が順調で、インドの原木発注も勢いが無いため、日本は値下げを期待したいが、シッパー側も市場を分散し、日本市場への依存を薄めており、日本側の値下げ要求に簡単に応じない状況。PNG・ソロモンも出材は順調。中国からの引合いは依然多く、市況は強含み横這い。南洋材丸太の入・出荷は横這い、在庫はやや増加。製材品の入荷は横這い。原木の販売は、合板・製材用とも低迷。製材品の販売は低迷だが、一部棒類やデッキ用材は無い高が続く。

#### 4. 北洋材

ロシア極東は6月に入りアムール材の出荷がスタート。中国内陸向けバージ船出しは順調だが、日本向けは合板のロシア材離れを反映し、月2~3杯程度の配船にとどまる。中国沿岸部や韓国からの引合いも鈍く、各シッパーの弱気姿勢は当分続く模様。シベリア地方は夏山造材が始まっている。国内製材メーカーはすでに夏越えの丸太の手配が済んでおり、各シッパーとも開店休業が続く模様。富山港・富山新港の6月丸太入荷は、10,433 m<sup>3</sup>(アカマツ6,055 m<sup>3</sup>、エゾマツ3,795 m<sup>3</sup>、カラマツ583 m<sup>3</sup>)で、ほぼ先月と同じ。一方、製品は11,221 m<sup>3</sup>で先月比173%増。丸太の荷動きは引続き低調。製材品は輸入完成品のうち良材に荷動きが出てきた。出荷は低調で在庫は2~3ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツ、アカマツとも弱含み横這い。製材品は良材が下げ止まり。国内製材工場の採算状況はエゾマツ原板挽きはトントン、アカマツ丸太挽きは不採算。受注は低調で、特殊サイズでの受注生産に切り替えて稼働。

#### 5. 合板

合板用国産材丸太は、スギを中心に弱含みの状態が継続。南洋材丸太も同様で、産地ではインドや中国の需要が落ち込んでいる影響で弱基調。針葉樹、南洋材合板メーカーともに減産体制を維持しており、原木在庫は潤沢な様子。5月の国内合板生産量21.2万m<sup>3</sup>のうち、針葉樹合板は19.5万m<sup>3</sup>。出荷量は18.3万m<sup>3</sup>で生産量を下回り、在庫量が24.4万m<sup>3</sup>と昨年5月以降12ヶ月連続の増加となった。市場ではメーカー側の減産効果による早期の需給均衡に期待が高まる。針葉樹合板は、メーカー側の方針が市場に浸透し、下落に歯止めがかかった。しかし、市場では減産の確認に不信感があり、大幅な値戻しは望めない状況。国産南洋材合板の荷動きは、引き続き低調で価格は横這い。針葉樹合板はメーカー側の減産表明や値戻しへの足並みが揃ったことが市場に浸透。底値感が強くなったことから市場の手当ては進み、足元で荷動きは活発な状況。輸入合板の荷動きはまずまずだが、価格は上がり足踏み状態。一方、針葉樹合板はメーカーの足並みと実需が今後のポイントで、旧値の手当てが進んだため新値の手

当ては慎重と予測。

## 6. 構造用集成材

原料・ラミナは順調に入荷。しかし、5月のコンテナ不足の影響で、7、8月の入荷は多少少ない。現地製品も同様な状況で、市況次第では不足する場合も出てくる。6月積みは若干回復したものの入荷に2ヶ月かかるアイテムもある。国産集成材の受注、販売、荷動き及び在庫は横這い。価格は船会社のフレイトの値上げが原料価格を押し上げており、第2QTRよりも第3QTRにフロート分だけの値上げの動きがあるも、日本のマーケットの動きが低調なので値上げできない状況。輸入集成材は間柱の30~40€の値上げが通り、羽柄材等品不足の品目から順次値上げ。しかし、構造材は国内メーカーの動向及び前QTRの入荷遅れ等もあり値上げができず、今後の契約分についても値上げが難しい状況。関東圏では7、8月に一服感アリ。職人不足は落ち着きつつあるが、東北地域は依然解消されず。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキとも荷動き悪い。相場は安値傾向で、数量的にまとまった動き少ない。外材も国産材同様動き鈍い。造作材は、国産材ではリフォーム需要のためかスギ、ヒノキとも化粧材に小動き。外材は、スプルースの入荷が改善されず、建築、建具用ともに対応に苦慮。市場では様々な催事を企画するも、買方の反応は鈍く、来場者は少ない。買方の地域や力量により仕事量の格差が拡大している。住宅エコポイント制度は、先日申込み受付が締切られたが、この人気とは裏腹に景況感は感じられなかった。梅雨明け以降に期待したい。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、板割、ヒノキKD柱、土台いづれも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW間柱保合。造作材スプルースクリヤー盤入荷少なく順番待ち。タモ、ナラは強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。針葉樹合板はメーカーが値上げを唱えるが浸透せず。今月から値戻し始まる。ラワン合板は保合。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、相変わらず町場の仕事少なく苦戦。町場工務店はリフォーム中心で受注しているが、全体的には長期低落傾向。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)